

九州工業大学における教育職員の評価について
21年度（2009年度）実施分

— 平成22年2月 —
九州工業大学

目 次

I	はじめに	P 1
II	教育職員評価の実施方法の概要	P 2
III	評価結果について	P 5
	1. 教育職員評価の申請状況について	
	2. 5段階の総合評価：職階別（人数・割合）	
	3. 職種別重み	
	4. 職種別評価平均点（50点満点）	
	5. 前回実施との比較	
	6. 5段階の総合評価：全体（308人）の割合と職階分布	

I はじめに

平成21年度に実施した教育職員評価の結果をとりまとめましたので、評価方法と併せて公表いたします。

本学では、教育職員の教育研究活動等の一層の活性化を図り、質的向上に努めることを目的として、中期目標・中期計画において教育職員の評価を実施することが盛り込まれています。評価の実施に向けて、大学評価委員会で評価方法や評価基準について審議を重ね、評価は3年ごとに実施することとし、評価領域として「教育、研究、社会貢献、管理運営」の4つを設定するとともに、研究領域については過去5年度分、他の3つの領域については過去3年度分の活動状況を評価対象としました。さらに、評価作業の軽減化を図るため、グループウェア上に「教育職員評価システム」を構築し、このシステムを活用して、平成17年度に試行評価を実施しました。この結果を踏まえ、評価基準やシステムの改善を進めて、平成18年度に第1回目の評価を実施しました。評価結果は、経営協議会に報告し、最終的に教育研究評議会で審議を経た後、大学のWeb上に公開しました。本学の教育職員評価の実施に対して、国立大学法人評価委員会が平成21年3月に発表した「国立大学法人九州工業大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果」の中で、「平成18年度より『教育』、『研究』、『社会貢献』、『管理運営』の項目についての教育職員評価を実施し、評価結果を踏まえ、改善を要すると判断された教育職員に対しては、改善計画書を提出させるとともに、優良な教育職員については賞与等の処遇に反映させており、評価できる」との評価結果を得ています。

平成18年度に実施した教育職員評価結果に対する経営協議会の提言を受けて、その改善策を大学評価委員会で審議し、総合評価の段階数を「最良」、「良好」、「やや問題があり改善の余地がある」、「問題があり改善を要する」の4段階から、「特に優れている」、「優れている」、「適切である」、「改善の余地がある」、「改善を要する」の5段階に変更することとし、前回の評価結果の統計データを活用して各段階の点数範囲の見直しを行いました。総合評価の段階数と各段階の点数範囲を除いた評価項目、教育・研究・管理運営領域に対する水準、各領域における5段階評価、各領域に対する重みの設定等については基本的に変更しておりません。従って、前回の評価結果と比較した教育研究活動等の向上状況の把握が可能だと思っています。

国立大学法人における教育職員評価制度自体の導入はほぼ完了しており、教育職員評価は個人の改善を意図した導入の段階から組織的改善へ向けての発展段階にあるといわれています。今回の評価が教員の教育研究活動等の更なる向上に資するだけでなく、PDCAサイクルの下で適切に運用され、組織の改善に向けて有効に活用されることを期待しています。

大学評価委員会委員長
遠藤 勉

II 教育職員評価の実施方法の概要

1. 教育職員評価の目的

教育職員の教育研究活動等の一層の活性化を図り、質的向上に努めることを目的。
全教育職員をランク付けすることが目的ではない。

2. 評価実施年度（平成 18 年度より 3 年ごとに実施）

第 1 回 平成 18 年度
第 2 回 平成 21 年度

3. 評価対象及び期間について（教育・研究・社会貢献・管理運営）

教育、社会貢献、管理運営：過去 3 年度分（平成 18 年度～平成 20 年度）
研究：過去 5 年度分（平成 16 年度～平成 20 年度）

4. 評価実施方法

「教員情報データベース」のデータを活用するとともに、評価申請者、評価実施組織の担当者双方の評価関係作業の効率化を図る観点から、全学グループウェア（ロータスノート）上の「教育職員評価システム」により、教育職員評価を実施。

5. 評価手順

- ① 各教育職員は、教員情報データベース及び教育職員評価シート（重み付けを含む）を入力し、評価申請。
- ② 評価実施組織の担当者は、4つの評価の領域（教育、研究、社会貢献、管理運営）ごとに、5段階の領域別評価を実施。
- ③ 部局の長及び各センター長は、自己申告及び評価実施組織の担当者が行った領域別評価を勘案し、
 - 「特に優れている」
 - 「優れている」
 - 「適切である」
 - 「改善の余地がある」
 - 「改善を要する」の5段階評価を決定。併せて申請内容に対するコメントを記載。
- ④ 評価結果を各教育職員に内示。評価結果に対し、異議がある場合は、意見の申立てが可能。
- ⑤ 部局の長及び各センター長は、意見の申立てについて検討を行った上で、学長に報告後、最終的な評価結果を決定し、各教育職員に通知。

6. 評価結果の活用（平成 21 年 4 月 3 日 教育研究評議会）

- ① 「改善の余地がある」又は「改善を要する」と判断した教育職員に対しては改善計画書を提出させる。
- ② 部局単位での業績等評価配分経費に反映する。
- ③ 昇給等（ボーナス含む）の選考の判断材料として部局長が推薦の際に活用する。

教育職員評価シートの画面の例： 教育の画面について

✖ 閉じる
📁 保存

評価シート

入力例: ★★★研究院 ●●●●●研究系 戸畑 花子 准教授

評価について申請を行う場合は内容を入力・確認の上、以下のボタンをクリックしてください。
※一旦申請すると、評価結果の通知まで変更できません。

※※評価申請を行う※※

○指示・伝達事項

○ウエイト設定 以下の項目に申請理由等あれば記入して下さい。

評価領域	ウエイト(%)	
教育	25 %	
研究	25 %	
社会貢献	25 %	
管理運営	25 %	
合計	100%	

再計算
 ※ウエイト変更後は必ず「再計算」ボタンをクリックしてください。ウエイト設定について

教育
研究
社会貢献
管理運営
その他自由記述

※教育の評価基準及び算定方法について

教育の評価: 学部・大学院 両方 学部主体 大学院主体 で評価する。

2006年度～2008年度(過去3年分)

評価の種類	評価項目	件数/評価	評価指標
学部教育	授業担当(学部)	20件/A	1
	卒業研究指導	17件/A	
	留学生指導・身体に障害を持つ学生指導(学部)	1件/B	
大学院教育	授業担当(大学院)	0件/C	1
	博士前期課程指導	15件/A	
	博士後期課程指導	3件/A	
	博士論文審査	1.5件/B	
教育の質	FD活動への参加	企画立案0件/参加1件/B	2
	教育達成目標とその妥当性	評価者コメント: 評価: 自己評価: <div style="border: 1px solid gray; height: 40px; width: 100%;"></div> 評価: <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C 入力サンプルの表示	
	教育達成目標の達成状況	評価者コメント: 評価: 自己評価: <div style="border: 1px solid gray; height: 40px; width: 100%;"></div> 評価: <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C 入力サンプルの表示	

評価シートにおける評価結果の画面例

✕ 閉じる

評価シート

入力例:★★★研究院 ●●●●研究系 戸畑 花子 准教授

評価結果
総合評価:39.5(適切である)

○指示・伝達事項		○評価者点数加点					
○研究の領域で加点しました。 学内研究プロジェクトにおいて目覚ましい研究成果を上げている点や大型の外部資金を獲得している点を高く評価しました。今後のさらなる研究の進展を期待しています。		領域	加点前 点数	加点の 有無	加点後 点数	ウエイト 後点数	総合評価への 加点
○授業アンケートの結果にもありましたが、学生の理解度を良く把握して、小テストを実施するなど、工夫をされてはどうでしょうか。		A.教育	40		40	10	
		B.研究	40	する	50	20	
		C.社会貢献	40		40	8	
		D.管理運営	10		10	1.5	
○意見の申立て内容		○申請者からの申請理由等					
○ウエイト設定		大型の外部資金を獲得し研究を推進しているため、研究にウエイトを置いている。					
評価領域	ウエイト(%)						
教育	25%						
研究	40%						
社会貢献	20%						
管理運営	15%						
合計	100%						

教育 **研究** 社会貢献 管理運営 その他自由記述

教育の評価:学部・大学院 両方 で評価する。

2006年度～2008年度(過去3年分)

評価の種類	評価項目	件数/評価	評価指標
学部教育	授業担当(学部)	11件/B	2
	卒業研究指導	11件/B	
	留学生指導・身体に障害を持つ学生指導(学部)	2件/B	
大学院教育	授業担当(大学院)	3件/A	1
	博士前期課程指導	11件/B	
	博士後期課程指導	2件/B	
	博士論文審査	0.5件/C	
教育の質	FD活動への参加	企画立案0件/参加1件/B	1
	教育達成目標とその妥当性	評価者コメント: 評価:A 自己評価:A ・教育達成目標が社会ニーズに必ずしも沿っていないと考えられるので、○○という改善策を考えており、次年度には改善策を実施する計画である。	
	教育達成目標の達成状況	評価者コメント: 評価をAからBに変更しました。 (理由)授業アンケートの結果には、学生からの不満の声も多く見受けられます。 評価:B 自己評価:A ・学生の理解は十分と考えており、授業アンケートの○○という結果もこのことを裏付けている。	

Ⅲ 評価結果について

1. 教育職員評価の申請状況について

(単位：人)

部局	研究系・専攻名	教授	准教授 ・講師	助教	計	未申請	非対象者 等(※)
工学研究院	機械知能工学研究系	13	12	6	31		
	建設社会工学研究系	7	7	2	16		
	電気電子工学研究系	13	8	10	31		
	物質工学研究系	12	10	9	31		
	基礎科学研究系	7	6	0	13		
	人間科学系	8	9	0	17		
	先端機能システム工学研究系	3	5	0	8		
小 計		63	57	27	147	2	22
情報工学 研究院	知能情報工学研究系	7	9	6	22		
	電子情報工学研究系	10	6	3	19		
	システム創成情報工学研究系	8	7	6	21		
	機械情報工学研究系	7	8	4	19		
	生命情報工学研究系	8	6	3	17		
	人間科学系	5	6	0	11		
	情報創成工学研究系	2	2	3	7		
小 計		47	44	25	116	0	13
生命体工学 研究科	生体機能専攻	11	6	0	17		
	脳情報専攻	9	7	1	17		
小 計		20	13	1	34	0	11
学内共同 教育研究 施設 注1)	情報科学センター	0	2	3	5		
	マイクロ化総合技術センター	2	1	0	3		
	機器分析センター	1	0	0	1		
	バイオマイクロセンシング技術研究センター	0	0	1	1		
	安全衛生推進室	0	1	0	1		
小 計		3	4	4	11	0	29
合 計		133	118	57	308	2	75

※「非対象者等」とは、在職3年未満及び任期付き採用の教育職員及び免除申請者

注1) 下記の学内共同教育研究施設は、今回対象者なし。(非対象者等のため)

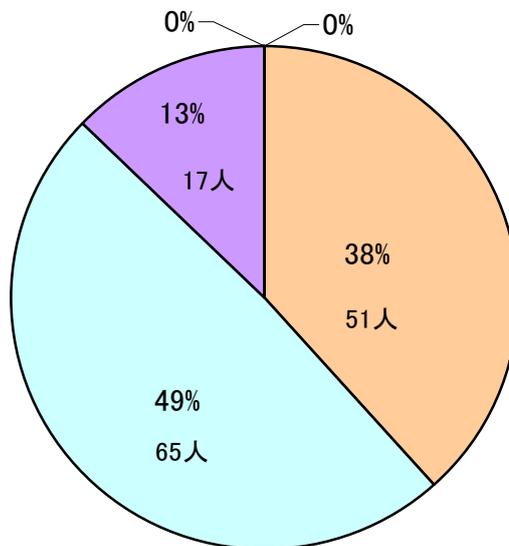
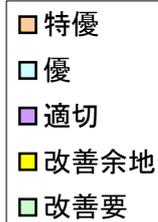
保健センター、産学連携推進センター、宇宙環境技術研究センター、ネットワークデザイン研究センター、
先端金型センター、情報通信技術教育センター、先端エコフッティング技術研究開発センター、大学評価室

2. 5段階の総合評価:職階別(人数・割合)

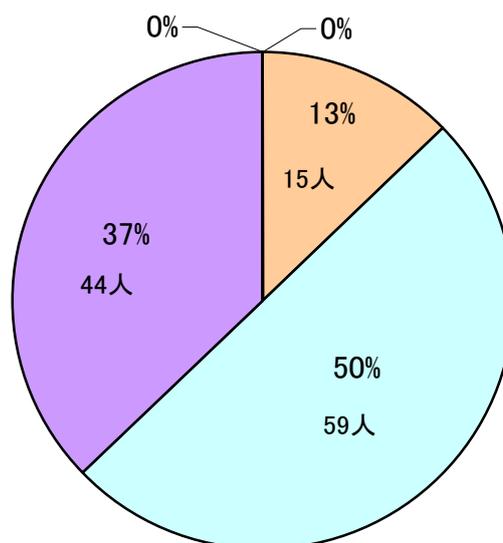
<総合評価>

特優(特に優れている):50点、優(優れている):45点以上50点未満、適切(適切である):30点以上45点未満、改善余地(改善の余地がある):20点以上30点未満、改善要(改善を要する):20点未満

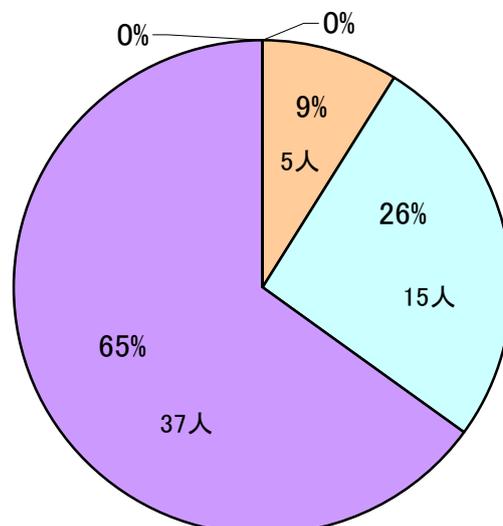
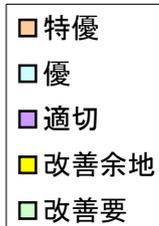
教授 (133人)



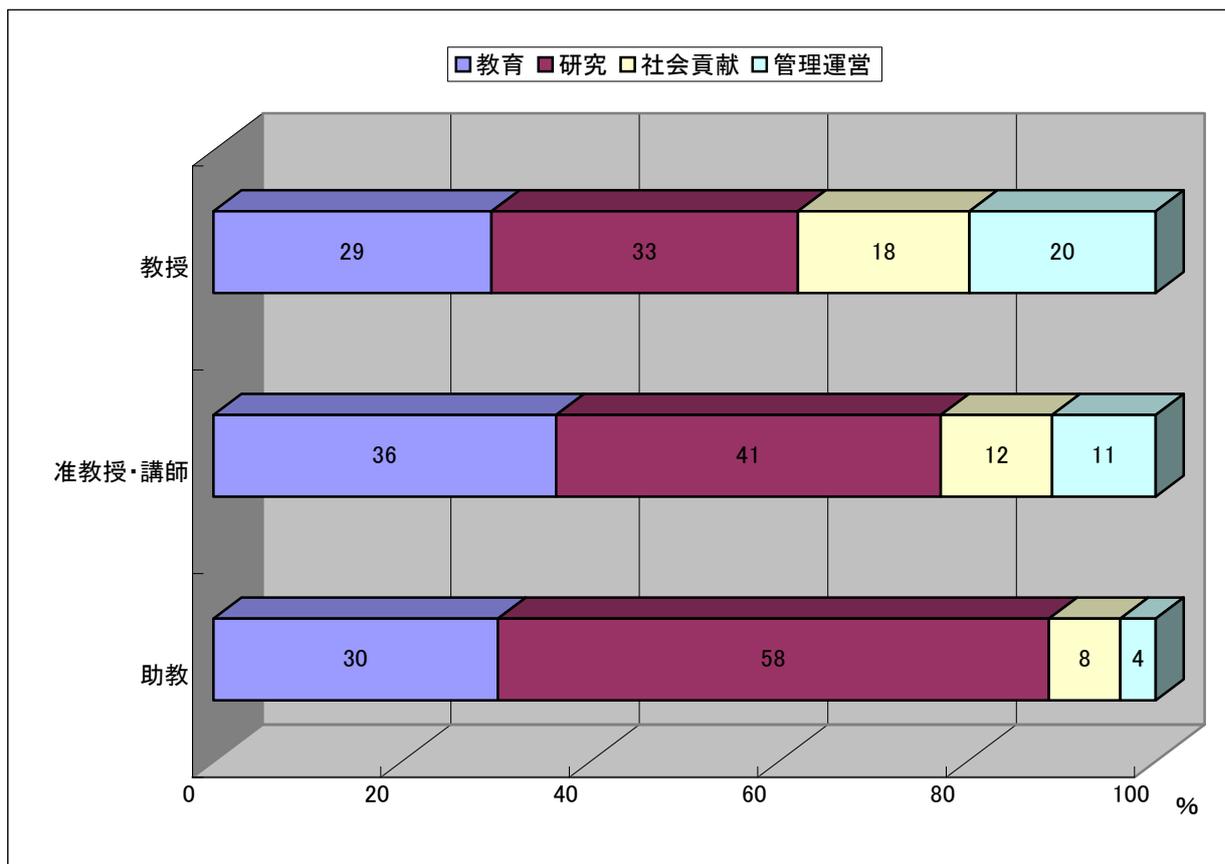
准教授・講師 (118人)



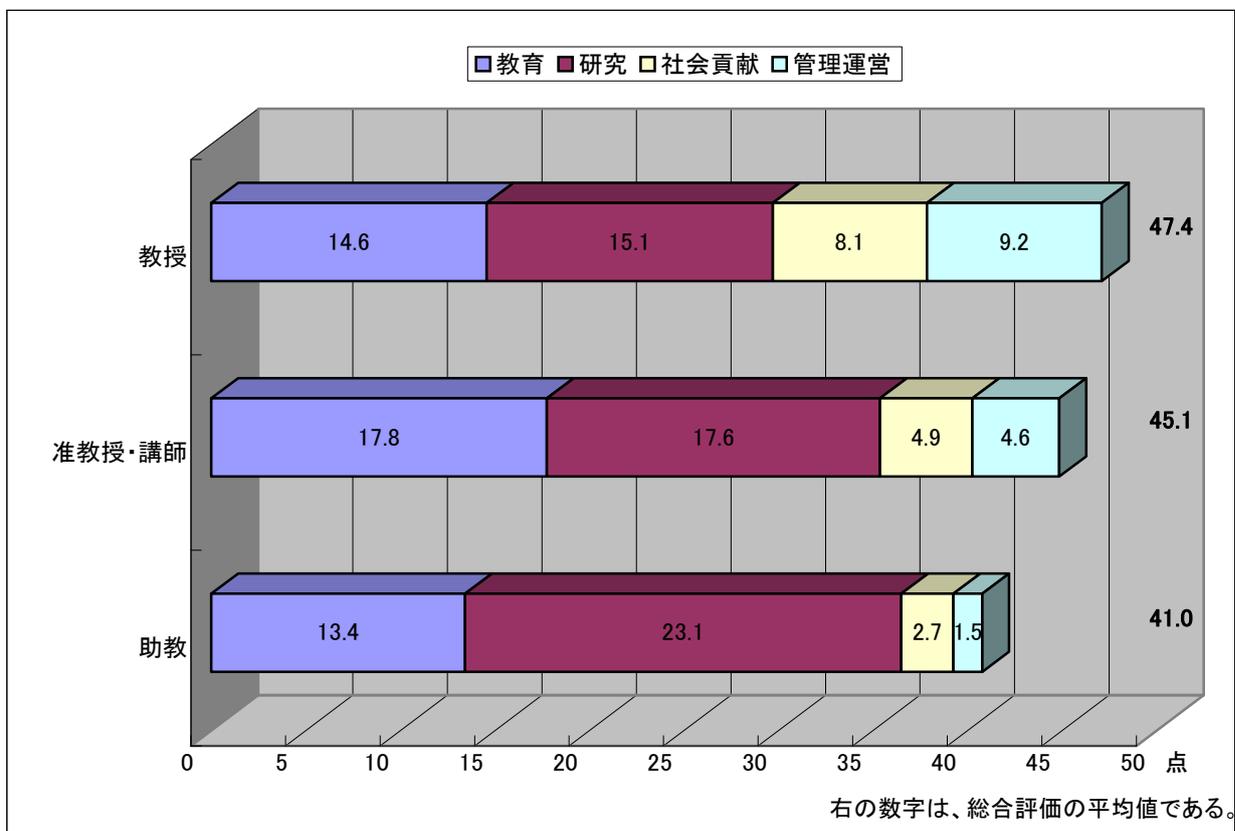
助教 (57人)



3. 職種別重み

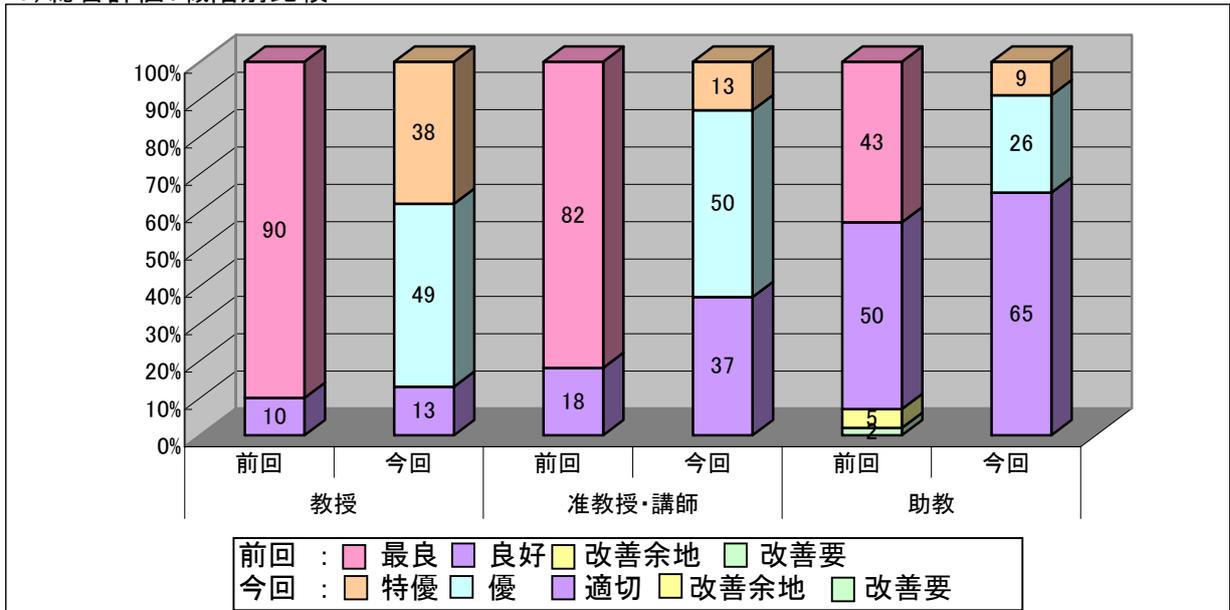


4. 職種別評価平均点 (50点満点)



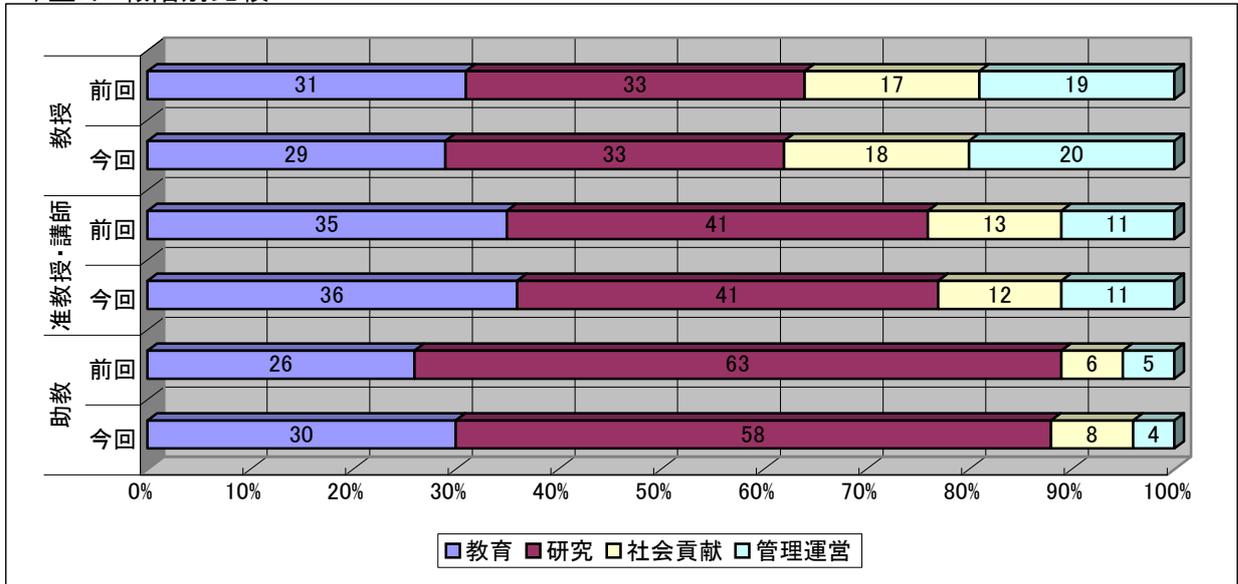
5. 前回実施との比較

1) 総合評価：職階別比較

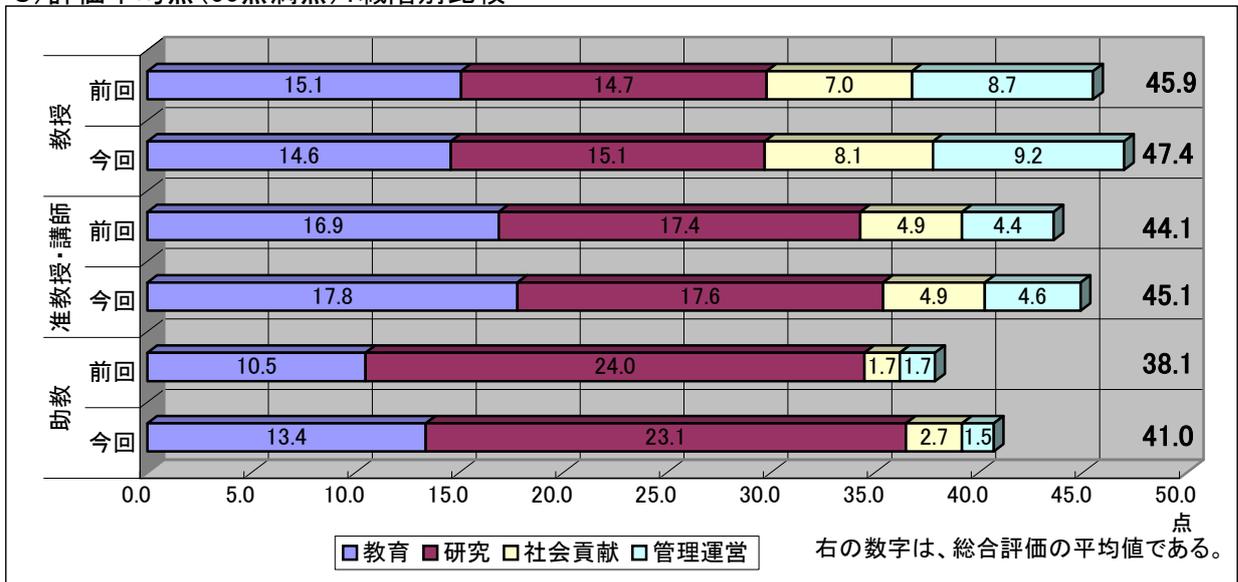


※今回は総合評価の段階数を4段階から5段階に変更

2) 重み：職階別比較



3) 評価平均点(50点満点)：職階別比較



6. 5段階の総合評価:全体(308人)の割合と職階分布

